

本校の調査結果の概要

本年度の調査の概要

- 目的** 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 調査対象** 中学校第3学年 (小学校第6学年)
- 調査内容**
- 教科に関する調査 (国語、数学、英語)
 - ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
 - ②知識、技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など
 - 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- 調査日時** 平成31年4月18日 (木)
- 留意事項** 本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が国語、算数・数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である。
平均正答数、平均正答率のみでは必ずしも調査結果の全てを表すものではなく、他の情報とあわせて総合的に結果を分析、評価することが必要である。また、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

令和元年11月

札幌市立明園中学校

【国語】

本校の概要

【区分及び学習指導要領の領域】

- 「話すこと・聞くこと」の平均正答率
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

- 「書くこと」の平均正答率
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

- 「読むこと」の平均正答率
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均正答率
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

今回調査における課題

- 相手に分かりやすく伝わる表現について理解すること。
- 話合いの話題や方向を捉えること

- 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討すること。

- 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつこと。

- 封筒の書き方を理解し、文字の大きさや配列などに注意して書くこと。

改善の方向

- 対話や討論、意見交換等の過程において、話合いの目的や話題についての確認や、内容に関する質問をしながら、自分の考えとの共通点や相違点を整理するなどの学習活動を充実させる。

- 目的や意図に応じて、読みやすくわかりやすい文章にするために、事実や事柄、意見や心情が読み手に効果的に伝わるように説明するなどの学習活動を充実させる。

- 目的意識をもち、分析や比較などにより必要な情報を整理したり、文章の構成や展開、表現の仕方に関して、書き手の目的や意図、その効果について考えたりするなどの学習活動を充実させる。

- 目的や場面、メモやノート、手紙、案内文などの様々な書式に応じて、適切な字形や書体で書くなど、書写の能力と生活や他教科等の学習と関連させた学習活動の充実を図る。

※「全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内」を「ほぼ同程度」と表し、その範囲の外を「上回っている」「下回っている」と表す。

【数学】

本校の概要

【区分及び学習指導要領の領域】

- 「数と式」の平均正答率
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

- 「図形」の平均正答率
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

- 「関数」の平均正答率
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

- 「資料の活用」の平均正答率
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

今回調査における課題

- 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること。

- 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明すること。

- 反比例の表から、 x と y の関係を式で表すこと。

- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。

- 問題解決をするために、どのような代表値を用いるべきかを判断すること。

改善の方向

- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する活動を充実させる。

- 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する活動を充実させる。

- 反比例の表から特徴を見だし、 x と y の関係を数学的に表現する活動を重視する。
- 事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動を充実させる。

- 目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って判断するという一連の活動を取り入れた、統計的に問題解決する活動を充実させる。

※「全国平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内」を「ほぼ同程度」と表し、その範囲の外を「上回っている」「下回っている」と表す。

【英語】

本校の概要

【区分及び学習指導要領の領域】

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」に関する問題

□「聞くこと」の平均正答率
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

□「読むこと」の平均正答率
・全国平均より下回っている。

□「書くこと」の平均正答率
・全国平均より下回っている。

今回調査における課題

●教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ること。

●日常的な話題について、簡単な語句や分で書かれたものの内容を、正確に読み取ること。

●まとまりのある英文を読んで、話のあらすじを理解すること。

●与えられた情報に基づいて、正しい文法を使い、英文を正確に書くこと。

●与えられたテーマについて、自分の考えを整理し、文のつながりに注意してまとまりのある英文を書くこと。

改善の方向

○教室英語の充実を図り、生徒同士、教師とのQ&A、Small Talkなどのインタラクシオンを取り入れた活動の工夫をする。

○語彙、文法事項の定着とともにまとまりのある英文を読みながら、概要や要点をとらえる言語活動を充実させる。

○文法事項の定着につなげるために、自分や身の回りのことについて伝えるための書く活動を充実させる。

○テーマに基づいて、既習の表現を使いながら、まとまりのある英文を書く活動を充実させる。

○既習の文法事項の定着を図りながら、場面設定や目的を明確にしたコミュニケーション活動を充実させる。

※「全国平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内」を「ほぼ同程度」と表し、その範囲の外を「上回っている」「下回っている」と表す。

【生徒質問紙調査】から

質問分類 A…家庭生活に関わるもの B…学校生活に関わるもの C…学習に関わるもの
D…自分自身や他との関わり E…地域や社会に関わるもの

□肯定的な回答が80%以上のもの (差は、全国平均と比較したものである。)

分類	質問事項	本校	差
A	毎日、朝食を食べている。	93.7	+ 0.6
A	同じくらいの時間に起きている。	92.8	0
B	学校の規則を守っている。	94.6	- 1.6
B	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	91.0	- 1.6
D	先生は、良いところを認めてくれる。	80.2	- 1.3
D	物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがある。	95.5	+ 1.6
D	人の役に立つ人間になりたいと思っている。	94.6	+ 0.3

■肯定的な回答が50%未満のもの (差は、全国平均と比較したものである。)

分類	質問事項	本校	差
C	家において自分で計画を立てて勉強している。	33.3	-17.1
C	1, 2年生の時に受けた授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う。	46.8	- 9.0
E	新聞を読んでいる。	13.5	+ 0.8
E	今住んでいる地域の行事に参加している。	26.1	-24.5
E	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う。	47.7	-14.7

☆参考となるもの (差は、全国平均と比較したものである。)

分類	質問事項	本校	差
C	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていると思う。	60.3	-11.3
C	総合的な学習の時間では、自分で計画を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。	51.3	-10.2
D	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	62.1	- 8.2
D	人が困っているときは進んで助けている。	75.6	-10.3
E	読書は好きである。	73.9	+ 5.9

【A】家庭においては、概ね規則正しい生活が行われていて、【B】学校の規則を守ったり、いじめは良くないことだと思っているので、規律の面は、だいたい身に付いている。【C】学習面では、自分で計画を立てて勉強ができていない割合が高く、家庭学習の習慣が身に付いていない。また、学級のために進んで意見を出したり、自分の考えを相手にうまく伝える力が弱い傾向がある。【D】自分自身や他との関わりでは、物事をやり遂げた達成感や、まわりが認めてくれていると思う反面、自己肯定感が低かったり、人の役に立ちたいが、主体的に物事に取り組んでいこうとする力が弱いように思われる。【E】地域や国際社会への貢献については、やや低い傾向にある。

【分析結果から】「計画的に家庭学習を進めていくこと」「主体的に発信する力を身に付け、自己有用感や自己肯定感を高めていくこと」を、今後、改善していくことが必要である。